



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 35 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

求められる都市・建築の総合的防災対策

東北支部長 源栄 正人

未曾有の大震災から4年が経過しましたが、一向に復興が進んでいないのが現状であります。東日本大震災を一言で語るのには難しいが、敢えて簡潔に表現するならば、「細分化社会を襲った巨大地震」と表現できるのではないのでしょうか。学問の細分化、縦割り行政、進化した社会の弱点であるのは事実であります。都市・建築の地震対策に関わる学問分野も細分化しています。細分化を反映するかのように基礎構造と上部構造のバランスの悪さ、構造躯体と非構造・設備のバランスの悪さも東日本大震災で浮き彫りになりました。

「防災の父」といわれる寺田寅彦は「人間社会の進化が分化につながり、一小部分の破壊が全体の破壊に成りかねないことを常に認識する必要がある。この点、再生能力がある下等動物に学ぶものもあろう」(天災と国防)と指摘しています。寅彦は「災害の原因を科学的に解明するだけでなく、後難をなくすための策を考える必要がある」(災難雑考)とも言っています。恩師・志賀敏男先生は、常々「防災対策の要点は弱点の把握とその解消である」と言われました。

東日本大震災という巨大地震を経験して改めて思うのは、分化する社会においてホーリスティックな防災対策

が求められることであり、総合的な防災対策の必要性を痛感しています。そのためには、学問領域を超えた連携が必要であり、弱点を補う自治体連携、国際連携活動など、「連携」と「協働」が求められます。また、東日本大震災は、多くの観測記録が得られた初めての巨大地震であります。観測データが示す実大実験と理論解析の対応を検証することの重要性を改めて痛感しています。

支部活動として本年度は、建築文化週間および災害委員会の企画として「災害に強いまちづくり—被災地からの発信」を開催しました。また、仙台で開催された国連防災会議のパブリックフォーラムとして、学会本部と建築系5団体によるシンポジウムの実施に地元支部として協力しました。この世界防災会議では、今後の行動枠組として、災害リスクマネージメントの考え方に基づく被災経験の事前対策へのフィードバックや科学技術の有効活用、行政、研究機関、コミュニティーなど多様な団体の参画が示されています。

恒例の支部研究報告会は「みちのくの風2015 山形」として山形大学(山形市)を会場に6月21日(土)～22日(日)に開催いたします。会員各位の多数の参加をお待ちしております。

もくじ

○巻頭言	1
○企画記事	2
○第35回東北建築賞作品賞選考報告	4
○第25回東北建築作品発表会報告	7
○第34回東北建築賞表彰式及び展示会報告	7
○日本建築学会作品選集2015 東北支部選考経過	7
○2014年度設計競技東北支部審査報告	8
○2014年度東北支部研究報告会報告	8

○2014年度日本建築学会東北支部総会報告	8
○研究部会活動報告	9
○支所だより	12
○支部役員会から	14
○支部役員名簿	16
○2014年度事業報告	17
○2015年度事業計画(案)	19
○法人・賛助会員名簿	21

企画記事

「みちのくの風 2014 福島」開催報告

常議員（総務企画） 後藤 伴延

2014年度東北支部研究報告会「みちのくの風2014福島」は2014年6月21日（土）・22日（日）の両日、郡山市の日本大学工学部を会場に開催された。発表論文題数は環境系25題、計画系24題、構造系31題、材料施工系13題、合計93題であった。両日はそれぞれの会場に分かれて、活発な意見交換が行われた。初日の21日（土）午前には、日本建築学会会長 吉野 博 氏（東北大学 総長特命教授）より「新体制における課題と対応—特に震災復興対応と低炭素都市・建築の実現に向けて」と題した基調講演が行われ、会長就任に伴い新たに掲げた課題とその対応、今後の学会の活動方針や支部活動として期待すること等についての議論がなされた。また、同日夕方には同会場において第34回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会が開催された。2日目の22日（日）には、午前に高橋 暁 氏（国土技術政策総合研究所 住宅研究部 住宅情報システム研究官）による構造系招待講演「住宅・建築の長寿命化に向けた構造ヘルスマonitoring技術の利活用」が実施され、長期耐用の良質なストックの形成に向けた国土交通省の施策や、住宅の管理・流通における構造ヘルスマonitoring技術の利活用の考え方について紹介された。さらに、両日を通じて同会場の1階にて第34回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA 福島東北支部作品展示ならびに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会が開催された。いずれの企画も盛況のうちに無事終了することができ、関係者各位、特に陣頭指揮を執られた速水清孝氏（日本大学 准教授）には深く感謝申し上げます。

災害に強いまちづくりシンポジウム -被災地からの発信-報告

委員長 源栄 正人
（報告 大野 晋）

2014年10月28日（火）に、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターにて、災害に強いまちづくりシンポジウム-被災地からの発信-が開催された。本シンポジウムは東北支部と災害委員会の共催で、東北支部の各研究部会が東日本大震災の発生後これまで行ってきた災害調査および復興への支援について、市民向けに紹介することを目的としたものである。特に、今後の国内外の地震対策に向けて、1) 東日本大震災の被災実態に基づく教訓をまとめること、2) 得られた教訓に基づいて、今後の災害に対する防災・減災上の課題および復旧・復興上の課題を示すこと、に主眼をおいて開催された。参加者は約70名であった。

シンポジウムは2部構成で、最初に吉野博会長の開催挨拶および源栄正人支部長の趣旨説明があった。第1部では、「東日本大震災の教訓と防災・減災上の課題」と題して、木村祥

裕（東北大）、石山智（秋田県立大）、高橋典之（東北大）、三辻和弥（山形大）、最知正芳（東北工大）、赤井仁志（北海道大）の6名の講師から、宅地・建築構造から建築設備までを対象として、主に振動・津波による被害実態と教訓について報告された。第2部では、「東日本大震災の教訓と復旧・復興上の課題」と題して、永井康雄（山形大）、坂口大洋（仙台高専）、増田聡（東北大）、手島浩之（JIA 宮城）の5名の講師から、文化財保護から復旧・復興過程における課題および支援活動について報告された。最後に薛松濤前構造部会長（東北工大）からの閉会挨拶をもって終了した。仙台では2015年3月に国連世界防災会議が開かれる予定であり、支部による活動や教訓の発信を引き続き行う予定である。



吉野会長開会挨拶



源栄支部長趣旨説明

2014年度特色ある支部活動報告

建築デザイン教育部会 部会長 櫻井 一弥

2014年度の特色ある支部活動助成として採択された事業「東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた、教育機関と設計実務界をつなぐ教育プラットフォームの構築」に関して、建築デザイン教育部会として精力的に活動してきた。内容は以下の通りである。

- 1) 東北支部研究報告会における「建築デザイン発表会」の創設
- 2) JIA 東北支部主催の「JIA 東北建築学生賞」に対する支援と協力
- 3) JIA 東北支部宮城地域会主催のイベントに対する支援と協力
- 4) 各教育機関の建築系カリキュラムに関する情報共有
- 5) 他の教育機関で行われる設計製図講習会への参加

1) については、2015年度からの実施を目指して、募集要項の作成、賞の新設、運営方針の決定などについて継続的に議論してきた。その結果、2015年の支部研究報告会「みちのくの風」において、東北支部建築デザイン発表会を実施する運びとなった。

2) については、公益社団法人日本建築家協会（JIA）東北支部が約20年前より実施している「JIA 東北建築学生賞」の審査員として、本部会の委員を加えて戴くこととなり、建築

教育という観点からも学生の作品を審査し、より多面的な視点から学生賞を選出できるに至った。来年度以降も同様の支援を行っていく予定である。

3) については、本会と JIA 東北支部の共催という形で、今年度初めて「建築学生テクニカルセミナー」を企画・開催するに至った。本会と JIA との緊密な連携を図る意味でも有効であった。参加した学生や関係方面からは大変好評なイベントであったため、継続開催について検討していきたいと考えている。

4) については、部会を構成する各教育機関のカリキュラム構成とその意図するところについて情報交換を行った。

5) については、2014 年 8 月に、秋田県立大学の課題講習会に部会員ならびに他大学の学生が出席し、交流を行った。

以上、予定していた事業は滞りなく実施することができ、助成金を有効に使わせて戴いたと考えている。

山形支所 2014 年度「親と子の建築講座」活動報告

山形支所長 相羽 康郎

日時：2014 年 9 月 19 日 13:45～15:15

場所：山形県酒田市浜田小学校

対象：同小学校 6 年生 46 名および一般希望者（JIA 関係者および学校関係者）

JIA 協力のもと酒田市浜田小学校で実施した。校舎建て替え間もなく関心が高まっている学校の建築に関わる情報を伝え、併せて建築の教養としての基礎的情報を、親にもその話を伝えてもらう意図により、小学校の授業時間(40 分授業 2 コマ)内で行った。

1 コマ目 「私たちの学校を知る」：赤谷典夫（赤谷建築設計事務所）

酒田市の町の成り立ちおよび建て替え前の学校の様子を古い地図などを使って示し、屋根の形など建て替えた校舎が、それらを踏まえた設計であることが説明された。実際に使われた図面を机に置いて、休憩時に見られるようにし、同時に建築の構造に関して、チョークを手に取って、圧縮や曲げの

強さを実感してもらった。ところどころクイズ形式で答えてもらう方法で、建築家という職業についても説明をした。質問、意見では、建築家の給料がどのくらいかというものもあり、答えに苦慮する場面もあった。



チョークを使った材料特性の理解

2 コマ目 「まちの建築・目印建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）

地の建築としての街並みの上に近代建築は図の建築として RC の箱から鉄とガラスの箱へ、さらに自由な形態の目印作品として創作されてきた。江戸から明治・大正まで日本中の街並



実際の図面（手前）と講義の様子

みは、地の建物群が揃いの景観を形成した。高度成長期以降地の建築は揃いを失ったが、現代建築の街並み形成事例が出現し始めた。古写真や現代の建築単体、街並み写真を見てもらい、最後にどんな街並みのまちに住みたいか挙手を求めた。昨年に比べると酒田市内ということもあるのか、中高層のマンションのまちにも希望が多かった。



プロジェクターによる授業の様子

歴史意匠部会 2014 年度「親と子の建築講座」活動報告

歴史意匠部会長 相模 誓雄

（報告 熊谷 広子）

● 体験しよう！「伝統構法」のいえづくり

日時：2014 年 10 月 12 日（日）10:00～12:00

場所：宮城県名取市名取が丘 4 丁目 2 6-2 馨香庵

対象：小学生とその保護者

馨香庵棟梁の千葉隆平氏および原田左官工業所の原田正志氏の協力のもと、名取市名取が丘に移築建設中の古民家「馨香庵」にて標記イベントを実施した。体験内容は壁土となる泥を踏みこむこと、その泥を用意した壁パネルに塗り付けることの 2 つである。体験参加者は名取市内の小学校へポスターを掲示してもらい集まった小学生 12 名とその兄弟等の幼児 9 名、および保護者 13 名の計 34 名であった。

建物内で作業の説明を聞いた後、子どもたちはさっそく刻んだ稲藁をいれた泥を踏み始めた。最初、「つめたい！」「いた〜い！」という喚声があがっていたが、間もなく「お

もしろい」という感想も聞かれるようになり、互いにふざけ合いながらもずっと泥を踏み続けていた。

ひとしきり泥を踏んだ後、原田氏の手ほどきにより土壁の下塗りを行った。はじめはうまくできなかったが、コツを覚えて夢中になる様子がみられた。また、子どもたちだけでなく保護者にも体験してもらったが、子どもたち同様、夢中になる様子がみてとれた。うまくできなかった子どもたちも、それなりに楽しんでいただいているようである。しかし、道具の不足から、順番を待つことに飽きる子がでてしまったのが反省点である。



終了後、参加した子どもたちに感想を聞いた。答えてくれた15名中、「とても楽しかった」のが11名、「楽しかった」のが4名であり、またやってみたいかどうかについては「やりたい」が12名、「やってもいい」が3名であった。保護者からは「自然素材の家に興味があり自分の手で作業してみたいと思っていたが、これまでそのような機会がなく、今回参加できてよかった」といった感想もいただいた。今回は、主に小学校への募集掲示を行ったが、広く一般の目に触れるような募集をしたら、参加希望者は多く出たのではないかと思われた。環境共生の風潮の高まりの中、そのようなニーズが増えつつあるようにも思う。



第35回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 恒松 良純

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 10点
- ・一般建築物部門 14点

計 24点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2014年9月2日(火)

13:30 ~ 15:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2014年9月20日(土)

10:00 ~ 15:50

於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第25回東北建築作品発表会において応募24作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査 2014年9月20日(土)

16:00 ~ 17:15

於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、約半数の10~12作品を選定するため、小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から12作品程度を選考する事となった。各委員が夫々9票を投票した結果、得票数は0~9票となった。得票数5~9票までの11作品を第1次審査通過とし、更に得票数4票であった4作品から3作品を審査通過とした。

以上の結果、小規模建築物部門5点、一般建築物部門9点の合計14点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された14作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員負担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2015年1月24日(土) 13:00~17:30

於 日本建築学会東北支部会議室

小規模建築物部門ならびに一般建築物部門について、1作品ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑や審査委員の評価ポイント等につ

いての討議を全審査員で行った。一般建築物部門、小規模建築物部門を問わず1人6作品以内で票を投じ、まず8票以上を獲得した3作品、次いで6票を獲得した2作品について全会一致で作品賞として選定した。また、4票を獲得した2作品について議論の上、特別賞とした。以上の審議により、小規模建築物部門については作品賞1作品、一般建築物部門については作品賞4作品とした。小規模建築物部門より1作品と一般建築物部門より1作品を特別賞とした。

なお、賞の数については、募集要項で「作品賞は原則として小規模建築物部門4点以内、一般建築物部門4点以内」としている。

(6) 選考結果

作品賞 5点

石巻市子どもセンター

【所在地】 宮城県石巻市立町1丁目6-1
【基本構想・監修】・石巻市子どもまちづくりクラブ
・公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・
ジャパン 建築アドバイザー (ボランティア)
【施主】 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・
ジャパン
【設計施工】 (株)竹中工務店

山形BPOガーデン

【所在地】 山形県酒田市京田4丁目1番地1
【設計監理】 (株)久米設計
【施主】 (株)プレステージ・インターナショナル
【施工】 (株)大林組

認定こども園 ぼだい樹西こども園 西保育園

【所在地】 福島県白河市登町15
【設計監理】 意匠：(有)辺見美津男設計室
【施主】 学校法人 専念寺学園 理事長 寺西俊瑞
【施工】 (株)松本工務店
【木工事】 (有)鈴常工務店

庄内町新産業創造館クラッセ

【所在地】 山形県東田川郡庄内町余目字沢田108番地1
【設計監理】 (株)羽田設計事務所
【施主】 庄内町
【施工】 (株)狩川佐藤組

会津坂下町立坂下東幼稚園

【所在地】 福島県河沼郡会津坂下町字上口705
【設計監理】 意匠：阿部・辺見・秋月設計共同体+嶋影+坂詰+三瓶+田中+鈴木
構造：エーユーエム構造設計(株)
電気設備：エディック
機械設備：創スペース(株)
【施主】 福島県会津坂下町長
【施工】 建築：マルト建設(株)
電気：(有)長田電気工業

空調・衛生：(株)アークズ会津

特別賞 2点

水平線に沈む屋根

【所在地】 宮城県仙台市太白区
【設計監理】 意匠：(有)都市建築設計集団
構造：皆本建築工房
【施主】 阿部
【施工】 (株)プライム 下館工務店

かなや幼稚園

【所在地】 福島県いわき市内郷高坂町四方木田153
【設計監理】 設計統括：株式会社石嶋設計室
意匠設計：小松豪一級建築士事務所
構造設計：株式会社KAP
設備設計：株式会社テーテンス事務所
照明設計：ぼんぼり光環境計画株式会社
外構設計：高橋ランドスケープ
家具設計：laboratory 株式会社
屋外遊具設計：株式会社コト葉LAB.
サイン設計：藤城 光
屋外アートデザイン：OZA METALSTUDIO、湯村 光
【施主】 学校法人志向学園かなや幼稚園
【施工】 福浜大一建設株式会社
膜屋根施工：協立工業株式会社

(7) 講評

作品賞

【石巻市子どもセンター】

石巻の子ども達にとって、仮設住宅の集会所は自分たちの居場所ではなく、大人達の居場所との認識です。彼らが石巻のまちづくりに最も必要だと思ったのが「子どもの居場所」。子ども達がイメージする「ゆったり広場」という抽象的な言葉から、建築家と子ども達はワークショップを繰り返しながら建築空間のイメージを探り当てました。建築家は子ども達に「良い空間」を教えながら、建築家は子ども達の豊かなイメージに学びながら「ネスト(動物の巣)」のような空間、多様な空間が3次元に繋がって見え隠れしています。子ども達は複雑な空間を楽しみながら使いこなしています。そしてこの施設は、子ども達自身が積極的に施設運営に参画しています。子ども達が自分たちで地域に必要な建築をデザインしていく、そしてできた建築を、愛着を持って育てて行く。このプロジェクトは単に優れた建築デザインを生み出しただけでなく、優れた建築デザインが分かる発注者、そしてそれを運営していく主体を育てるプロジェクトとして、東北建築賞に相応しいとの高い評価が得られました。

【山形BPOガーデン】

インターチェンジに近く、施設は白いリボン状のシルエツ

トが高速道路を走る者に優しく遠望できる位置にある。

施設は、コールセンター機能で、スタッフを500人も有する地元の大きな企業である。大半が女性であり、女性の社会進出を象徴する職場環境といえる。設計コンセプトを明確に表現した計画となっている。施設機能から、女流建築家を参加条件としたコンペであったという。

明るさと優しさに溢れたオフィス環境であり、外部から内部への色彩の統一性は、立体的なスロープ状となっているリボン状の回遊空間全体に及び、スリット状の外壁の外光と、適度に配置されたトップライトの光は、空間全体を優しさで包み込み、軽快感を与えている。女性の配慮に、大きなパウダーコーナーや春夏秋冬ゾーンに分けた色彩ゾーンも華やかさを引き出すための努力が伺えた。

24 時間体制と出張のための福利厚生施設も完備されており、働く社員への企業側のモデルケースとなりえると感じた。さらに、地域貢献として広い敷地内での地域住民とのふれあいイベントに解放され市民コミュニティ作りに取り組んでいる姿も評価したい。

【認定こども園ほだい樹西こども園 西保育園】

本施設は北西風に対応した配置となっており、東側に芝生広場を有し、南側は川に面している。土間玄関から根付き杉丸太16本の柱郡で囲まれた遊戯ホールを中心として、芝生広場を挟んで両ウイングに保育室を配置した平面構成となっている。特に遊戯ホールは、子供たちを大きな傘の元に愛情一杯に育てたいという意図から、陣笠の骨が16本あることからイメージされている。

設計のコンセプトは、「生きる力」を育てることであり、多様な生活体験の場の再構築にある。各室を探検魂の育成を目的として、様々な仕掛けを提供し、あたたかみ森の中にいるかのような育ちの空間のある楽しい保育園を創出している点は評価に値するものである。また、施設内部は地場産材をふんだんに活用し、薪ストーブのある多目的ランチルームをはじめ、木の香り一杯の当保育園は、この施設で育つ園児に自然な環境空間のあり方と、建築がもたらす情操教育のありように一石を投じているといえる。更に雨水利用、地中熱利用、太陽光発電など省エネルギーを多様に取り入れており、小規模施設でありながら積極的に環境に配慮している点も高く評価された。

【庄内町新産業創造館クラッセ】

昭和9年に建築された近代において国内最大級の米倉庫を、その姿を大切にしつつ、町の産業振興、雇用創出、中心市街地の活性化を基本理念として再生した施設である。米倉庫は、近代以降、日本有数の米所である庄内町の景観を形成してきた。最大の魅力である大屋根の白瓦は新しいものに葺き替えられ、防火構造とするため防火壁の追加や外壁の改良が行われたが、その姿を留めている。内部は用途変更に伴う間仕切りや空調設備、内装制限による仕上げ材の追加、構造補強がなされたが、建設当時の松杭やコンクリート基礎、軸組や壁体は保存されている。また、屋根棟部において外観上のアク

セントになっている既存の換気塔や天窓を改修して活かしている。新しい用途の利用状況を見ると、農業が盛んな町の食材を使ったレストラン、下屋部分に設けられた地元特産品を販売するバザールは観光客や周辺住民などに、加工特産品開発のための貸工房及び共同利用加工場は地元団体によく利用されている。貸オフィスはIT企業が入居済で、地域の雇用創出につながっている。このようにクラッセは、全国的にも珍しく貴重な歴史的建築の保存にとどまっていない。改修部分が多いがその活用には地方の町の未来が見据えられている。他の地域に与える影響も少なくないと思われる。

【会津坂下町立坂下東幼稚園】

会津坂下町立坂下東幼稚園は、幼小連携構想により、隣接する小学校と連携して、同敷地内に新設された幼稚園です。園舎は卓越風向に配慮し、冬の風雪から園庭を守る様にV字に配置され、園庭に雪を落とさない片流れ屋根や園舎と園庭を繋ぐガラス屋根の雁木空間を備えて、園児室は園庭に開かれており、雪を退けるのみではなく楽しむための配慮が感じられます。この建物に用いられた木材は全て町内の学校林から得ており、屋内に一列に並ぶ樹木のような丸太の柱や無塗装の内装に園児が接することで、教育的な効果も大いに予感されます。木材と加工の徹底した地産地消や、暖房を目的として採用された地中熱ヒートポンプ、床下空調、開口部の断熱への配慮等、環境面の取組みも注目に値します。これらの事が審査委員会において高く評価されました。

今後、エネルギー消費や屋内環境の評価を行うことで、環境面の取組みにおいても評価されることを期待します。

特別賞

【水平線に沈む屋根】

この住宅のユニークなところは、北側の前面道路から見た外観である。砂利敷の前庭（駐車場）、生垣の向こうに緩勾配の金属板葺きの屋根のみが見える。建築の背景は、敷地の南側隣地に広がる保安林である。敷地は仙台市太白区の住宅地の端にあり、自然豊かな林に面するが、傾斜地である。このような決して良いとは言えない立地条件を活かして、開放的かつプライバシーに配慮された住宅になっている。斜面の下に玄関を設け、その上階（1階）に主な部屋が配置されている。1階は各室が東西方向へ一列に配置され、南面が全て窓になっており、林へ向かって開かれている。東側半分を占めるLDKは、北、東、南の三方が外に面し、窓で囲まれた最も居心地のよい空間である。1階の床が道路・前庭レベルより低く設けられており、前述の生垣もあるため、外からの視線が気にならない。プライバシーに配慮されつつ、通風が確保されている。南側隣地の落葉林は、夏の日射を遮り、冬の日射を取り入れることであろう。これらの工夫によって、都市の住宅地において別荘のような住宅が実現されている。特殊な立地や外観の住宅建築であるが、自然と建築のありかたを問う普遍性もうかがえる。野鳥の窓ガラスへの衝突に配慮がほしい。

【かなや幼稚園】

かなや幼稚園は、屋内に運動が出来る空間を備えた幼稚園です。園舎の中央に広い床を持ち、この床を取り囲むように園児室ほかの諸室が配置され、その上部は2階を一周するテラスになっています。テラスは中央の空間と広い階段で結ばれ、ブリッジや1階への滑り台が設けられるなど、屋内でありながら、園児がこの空間を立体的に利用するための工夫が見られます。この全てが一つの膜屋根で覆われることで屋内化され、天候を問わず園庭同様に使える空間になっています。空調は、外気と同程度を設計目標にして、園庭に埋設されたクール/ヒートチューブを介して導入した外気を温調して供給すると共に、屋根の適所にサーキュレータを設ける等きめ細かい配慮が見られます。また、膜屋根を透過する自然光によって十分に明るく、屋内でありながら狭苦しさの無い快適な空間を実現しています。この幼稚園には、屋内で子供を運動させたいという事情もありますが、寧ろポジティブな印象を受ける建築であり、特別賞にふさわしい作品であると評価されました。

第35回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

恒松 良純 東北学院大学工学部環境建設工学科

委員

飯藤 将之 仙台高等専門学校建築デザイン学科

最知 正芳 東北工業大学建築学科

齋藤 俊克 日本大学工学部建築学科

小杉 学 東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科

増田 聡 東北大学大学院経済学研究科

相模 誓雄 仙台高等専門学校建築デザイン学科

橋本 典久 八戸工業大学土木建築工学科

西村 明男 (株)佐藤総合計画東北事務所

藤原 薫 (株)鈴木建築設計事務所

小林 光 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

第25回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会文化) 小林 光

平成26年9月20日(土)に、せんだいメディアテーク7Fスタジオシアターにて「第25回東北建築作品発表会」を開催した。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。本年度は小規模建築物部門10作品、一般建築部門14作品の計24作品の発表があった。昨年に引き続き、震災復興に関連する建築作品の応募も多数み

られた。なお、2000年以降の作品応募数は年毎に増減はあるものの、平均して25~26作品である。

発表会においては、来場者に対して作品賞選考委員会より発表会、作品賞について簡単に紹介した後、恒松良純選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき発表8分、質疑応答2分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われると共に、活発な議論がなされた。本年は一般の参加者が若干少ないように感じられた。来年度においては、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めたい。

第34回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 小林 光

第34回東北建築賞に関して、6月21日(土)~22日(日)に開催された「みちのくの風2014福島」の一環として、表彰式および作品展示会が開催された。東北建築賞の表彰式は、1日目午後会場の日大工学部70号館6階にて、また受賞作品パネル展示会及びJIA福島東北支部作品展示は、会期中の2日間に亘って、同70号館1階にて行われた。本年の東北建築賞作品賞の受賞は、作品賞6作品、特別賞2作品の計8作品であった。表彰に先立ち、坂口大洋作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われた。続いて若井支部長より各受賞者に賞状、賞杯が贈呈された。また、東北建築賞研究奨励賞部門は1論文の受賞があり、選考経過に関する報告が行われたのち、若井支部長から賞状が贈呈された。表彰後、受賞者から受賞作品の紹介が行われ、またその後の懇親会では、受賞者を交えて交流が図られた。

本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々、福島支所の関係者・スタッフ、選考委員長はじめ選考委員、JIA東北支部の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

日本建築学会作品選集2015 東北支部選考経過

東北支部選考部会長 石田 壽一

本年度の応募作品は昨年度と同じ16作品であった。震災復興に関連したプロジェクトの応募が半数近い7作品にのぼり、東北地域の復興の兆しが実感を伴って本格化している感じが感じられた。7月2日、応募16作品の中から現地審査対象作品を投票により絞り込んだ。その結果、宮城8作品、福島2作品、山形1作品、青森1作品の計1

2作品が選出された。7月23日の宮城2作品を皮切りに、7月25日に福島、8月2日に山形、8月19日に青森、8月22日に宮城・仙台市内6作品について現地調査を実施した。同日、支部最終審査が行われ、その結果、本部推薦作品として、8作品が選出された。Aランク2作品、Bランク6作品のうち、最終的に本部選考ではAランク2作品、Bランク2作品が採択された。4作品中、3作品が震災関連となったことは、東北復興における建築の社会性が大きく評価された結果であり、支部選考の意図が反映されたかたちとなった。

《委員》

部会長 石田壽一（東北大学）
委員 二宮正一（二宮設計事務所）
渡辺敏男（盛岡設計同人）
加藤 彰（カトー建築設計事務所）
速水清孝（日本大学）
木曾善元（木曾善元建築工房）
福屋粧子（東北工業大学）

2014年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

審査委員長 櫻井 一弥

支部審査会は平成26年7月17日、日本建築学会東北支部事務局において行われた。審査員は、増田聡（東北大学）、佃悠（東北大学）、小地沢将之（仙台高等専門学校）、佐藤慎也（山形大学、審査当日欠席）、櫻井一弥（東北学院大学）である。応募のあった15作品中上位5点以内を支部入選とすることを確認の上、出席者4名がそれぞれ5点の作品を選び、議論を経て選考を進めた（当日欠席となった佐藤委員は事前に5点選出）。

投票の結果9作品が得票した。5票を獲得したのは「うつろいの景（No.11）」と「食のとおりみち（No.15）」の2作品である。No.11は、亘理町鳥の海に多様な生物を観察する施設を計画したもので、テーマの捉え方に多少難があったものの、表現力の高さが抜きんでており入選となった。No.15は伝統的建造物保存地区内での新たな建物同士のつながりを模索した作品で、地域景観の重要な要素である内蔵の扱いが弱いとの指摘があったが、着眼点の鋭さが評価され入選となった。仮設住宅の恒久的な利用を提案した「+コンテナ（No.10）」と、様々なマイクロ発電を組み合わせる自立的な島を構成しようとした「自立共生圏集落（No.12）」は、いずれも4票を獲得し入選となった。「それでも、海に住む（No.5）」は3票、「タケトリ〜竹とともに生きる（No.3）」、「高齢者の『いのち』（No.4）」、「海と生きる（No.6）」、「〜マジワルクオク（No.9）」の4作品は1票となった。1票を獲得した4作品は、いずれも独自の視点を持った力作であったが残念ながら入選には至らず、木材

の循環を踏まえて舟状の建築を提案したNo.5が5作品目として選出された。

選出された作品は、地域の持つ課題に真摯に向き合いながら、独特の解釈で解を導き出したものと評価できる。

2014年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育）日比野 巧

2014年度東北支部研究報告会「みちのくの風2014福島」は2014年6月21日（土）・22日（日）の両日、郡山市の日本大学工学部を会場に開催された。

発表論文数は計画系49題、構造系44題の合計93題であった。両日も4会場に分かれて、環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。研究報告会とは別に、初日の午前中には会長記念講演として吉野博氏（本会会長・東北大学名誉教授）による「新体制における課題と対応 東日本大震災の経験を生かし、レジリエントで持続可能な社会に向け 一総力を結集できる学会をめざして」の講演が行われた。午後には第34回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会が開催された。2日目の午前中には構造系の招待講演として高橋暁氏（国土技術政策総合研究所住宅情報システム研究官）による「住宅・建築の長寿命化に向けた構造ヘルスマonitoring技術の利活用」の講演が行われた。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。

報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2014年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員（総務企画）後藤 伴延

日時：2014年5月17日（土） 16:00～16:25
場所：仙台メディアテーク7階スタジオシアター
出席者：75名（委任状含む）

資料：

日本建築学会東北支部年報第34号

2014年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料1-1： 2014年3月31日現在 貸借対照表

資料1-2： 2013年度 正味財産増減計算書

資料1-3： 2013年度 収支計算書

資料2： 会計監査報告書

資料3-1： 2014年度 正味財産増減予算書内訳表

資料3-2： 2014年度 正味財産増減予算書

資料3-3： 2014年度 正味財産増減予算書

後藤伴延常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

研究部会活動報告

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者37名、委任状38通、合計75名の確認があり、東北支部会員1,141名の1/30(38名)以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

若井正一支部長による挨拶があり、今年度の総会通常通りに開催できたこと、東北支部の現状などが報告された。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、有川 智氏及びサンジェイ・パリーク氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、以下の事項について報告された。

(1) 2013年度事業及び会計に関する件

1) 2013年度事業

薛 松濤常議員より、支部年報17～18ページの「2013年度事業報告」に基づき、2013年度事業内容が報告された。

2) 2013年度収支決算

笹渕優樹常議員より、資料1-1「貸借対照表」、資料1-2「正味財産増減計算書」、資料1-3「収支計算書」に基づき、2013年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

堀 則男支部監事より、資料2「会計監査報告書」の通り、2013年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

(2) 2014年度事業及び会計に関する件

1) 2014年度事業計画(案)

速水清孝常議員より、支部年報19～20ページの「2014年度事業計画(案)」に基づき、2014年度事業計画案が説明された。

2) 2014年度収支予算(案)

佐藤大作常議員より、資料3-1「正味財産増減予算書内訳表」、資料3-2と3-3「正味財産増減予算書」が説明された。

上記(1)(2)の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2014年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

(1) 歴史・意匠部会

部会長 相模 誓雄

今年度は、以下の部会活動を行った。これらに関連して3回の部会会議を開催した。第一に、「宮城県近代和風建築総合調査」を実施した。宮城県内において近代に建てられた和風建築を把握し、その特徴を明らかにすることが目的である。その一次調査及び二次調査を宮城県から本会東北支部が受託し、本部会が実施した。調査は、11名の部会員が当たり、およそ9ヶ月間に渡った。夏の調査中に体調が悪くなり入院した調査員がいたり、とりまとめのため契約期間を延長したりしたが、年度内に完了した。来年度は三次の詳細調査が発注される予定である。第二に、本部会では初めてとなる「親と子の建築講座」を実施した。10月12日に名取市の馨香庵において、熊谷広子氏を中心となって壁土塗り体験実習を行った。小学生以下の子供たちとその親、都合34名の参加を得、大盛況であった。一般の方に歴史的建築への関心を深めていただく大変良い機会であり、部会としてこれからも取り組んでいきたいと考えている。第三に、昨年度に引き続いて、宮城県建築士会が主催する「宮城県ヘリテージマネージャー養成講習会」への講師派遣、文化庁から本会歴史・意匠委員会が受託した「我が国の近現代建築資料の所在状況調査及び保存基準の提案」に関する資料調査等を行った。前者では6名の部会員が講義や実習を行った。後者では4名の部会員が調査員として参加し、東北地方の県立図書館やドコモモ135選に選定されている施設等において建築資料を確認し、調査票として提出した。なお、今年度は、新たに山岸吉弘、氏家清一両氏が部会に加わり、ともに調査などを行った一方で、部会活動に尽力した会員の退会もあった。新しい事業を行うためには、多くの部会員の協力が欠かせない。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

平成26年度の建築計画部会は、部会単位での事業は行っていないが部会のメンバーはそれぞれ、建築学会の支部・本部などの東日本大震災の被災地調査及び復興支援等について精力的に従事するとともに、支部建築計画部会の委員を中心に情報交換等も常に行われている。

紙面の関係上全てを掲載することはできないが、以下に委員の活動の幾つかを記述する。石井先生、新井先生(以上東北工業大学)坂口(仙台高校専門学校)は、東日本大震災の被害報告書の建築計画分野担当幹事として、2016年度の発刊を目指し被害調査結果全体の検討及び集約、データの整理を継続して行っている。

また、日本建築学会特別調査委員会岩手・宮城支援 WG では、小野田先生、佃先生（以上東北大学）、巖先生（宮城学院女子大学）小杉先生、石井先生（以上東北工業大学）、福島支援 WG では浦部先生（日本大学）の先生方が中心となって検討・作業などが積極的に行われている。特に南三陸町では建築学会主導で福祉と建築の連携が具体化しつつあるなどの実効的な支援に展開している部分もある。

年度末には、仙台で開催された第三回国連防災世界会議のパブリックフォーラムの一つとして行われた建築系 5 団体による「いのちを守るまちづくり/家づくり」では、支部部会メンバーを中心に資料集の作成、当日のプレゼンテーション及び運営等にも小野田先生を中心に多くのメンバーが関わり、700 名近い参加者もあり無事成功裏に終わった。

発災から 4 年目を迎え、政府の方針も関連し復興計画の具体化は地域差と地域毎に多様な課題が複雑に関連しています。その点で、過去の災害復興並びに地域間の情報共有、問題解決の連携が重要であり、次年度より部会でも竣工し実際に入居後の状況や、情報共有の仕組みを検討していきたいと考えている。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

今年度も地方計画部会では、東日本大震災からの復旧・復興に直接・間接に参画している研究者や実務家、さらにその進展に関心を持っている支部内外の会員に情報の提供を行うとともに、勉強会や共同研究の機会を設けてきた。2014 年度末には、仙台開催の国連防災世界会議（2015 年 3 月 13～18 日）において 350 を越えるパブリックフォーラムが開催され、都市・地域防災、復興まちづくり・コミュニティ再生、産業復興等の分野で、部会員それぞれが、各自の研究・実践活動に応じたシンポジウム開催に携わっている。

http://www.bosai-sendai.jp/public_outline.html

特に、日本建築学会・建築系 5 団体合同事業である「いのちを守るまちづくり/家づくり」では、「復興の実情と課題、Build Back Better 事例、討論：BBB を妨げるもの実現するもの」等のセッションへ参加協力した。

<http://www.aij.or.jp/index/?se=eventlist&ac=view&id=1058>

また、2013 年から始まった「みやぎボイス（2014 年 5 月 10～11 日、日本建築家協会他）」では、「復興住宅のこえ」と題して、復興住宅に関わる 3 者「住宅のつくり手、福祉・教育領域等の支え手、地域のにない手」の交流の場を企画し、平野部、半島部、中心市街地の地域特性に応じた検討を公開で行った。

<http://www.jia-tohoku.org/blog/miyagi/entry-410.html>

発災から 4 年が経ち、防災集団移転、土地区画整理、災害公営住宅など、本部会の研究対象でもある復興事業が着工・完成を迎える一方で、発災後 5 年の集中復興期間の終

了が迫っている。広く復興政策・計画の見直しについて、上記のようなオープンな場での議論を深め、知見の共有化を進めていく必要がある。

(4) 構造部会

部会長 木村 祥裕

構造部会では、昨年度に引き続き、2011 年の東北地方太平洋沖地震により被災した鉄骨置屋根構造を有する体育館を対象とした、建築研究開発コンソーシアムの研究会「鉄骨置屋根構造の耐震に関する研究」（委員長：柴田明徳 東北大学名誉教授）を継続して行ってきた。その中で、東北大学、仙台高等専門学校の教員、学生らの有志により、RC 柱頭部と鉄骨トラス柱脚部にゴムシートを挿入し、回転剛性を抑えた改修が行われた名取市体育館の見学会を 12/12 に開催した。見学後、損傷状況に適切に対処した方法であることを確認し、改修のあり方について議論した。

2/13 には、初めての試みとして、建築学会東北支部と JSCA 東北支部の共催による講演会「教科書を疑おうー梁降伏形と言いながら 1 階の柱脚は大丈夫？ー」（講演者：東京工業大学名誉教授 和田章先生、構造計画プラス・ワン代表/JSCA 副会長 金田勝徳氏、東北大学教授 木村祥裕）を開催した。大学教員、構造設計者や学生など約 110 名が出席した本講演は、源栄正人支部長のご挨拶に始まり、3 名の講演者により約 2 時間にわたるものであり、これまでの巨大地震の教訓を踏まえた耐震設計法の問題点や地震による建物の倒壊を防ぐ、新たな鉄骨ラーメン構造の可能性を示したものであった。講演後の懇親会では、実務設計者からの質疑が相次ぎ、極めて盛況であった。

このような見学会、講演会を今後も継続的に開催し、建築構造に対する産学官のネットワーク強化を図っていきたい。

(5) 環境工学部会

部会長 菅原 正則

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と地元のニーズへ配慮しつつ部会活動を行っている。その主な内容は、部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催である。空気調和・衛生工学会東北支部をはじめ関連他団体との共催や、日本建築士会東北支部と相互に活動情報の交換を図っている。東日本大震災発生以降、震災関連住宅における健康影響の低減対策に関する研究 WG および放射線環境 WG を設置し、環境調査や改善策の提案に精力的に取り組んでいる。今年度は支部研究補助費を受けて、新たに、大規模災害時の停電によ

る空調・給排水衛生設備の凍結対策技術 WG を設置し、視察調査を中心として検討を重ねた。

今年度の部会活動を列挙すると下記の通りである。

1.部会および勉強会の開催

- ① 5/1 第 1 回部会および勉強会「準寒冷地のパッシブデザイン」、参加者 12 名
- ② 11/27 第 2 回部会および勉強会「全球気候モデル MIROC と領域気象モデル WRF を用いた力学的ダウンスケージングによる仙台の近未来標準気象データ作成手法の提案とこれを用いた将来の冷房負荷の推定」、参加者 13 名

2.研究会などの開催

- ① 6/13 講演会「第一次産業の第六次産業化へのエネルギー有効利活用」、参加者 38 名
- ② 7/7 見学会「いわき芸術文化交流館アリオス」、参加者 19 名
- ③ 9/24 見学会「新仙台市立病院」、参加者 21 名
- ④ 11/27 見学会「仙台市地下鉄東西線建設現場」、参加者 19 名
- ⑤ 12/25 セミナー「放射性物質の中間貯蔵施設の現状」、参加者 47 名
- ⑥ 2/6 シンポジウム「震災復興に向けた住宅建設の動向を知る」、参加者 67 名

(6) 材料部会

部会長 西脇 智哉

2014 年度は前年度に支部研究補助費を受けた「津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究」に引き続き取り組んだ。

第 1 回部会は 6 月 2 日に開催された。今年度の具体的な取り組みについて議論を行い、昨年度の調査で得られた結果については本会の技術報告集への投稿を行うことと、津波被害を受けた住宅の調査事例の拡大を目指すことを確認した。技術報告集への投稿については、この時点で投稿済みであった 2014 年度の建築学会年次大会への投稿内容を踏まえて、RC 造建築物と木造住宅基礎の RC 部分を対象として纏めることとした。

第 2 回部会は 9 月 9 日に開催された。ここでは、引き続き技術報告集への投稿論文の内容について議論を行った。また、10 月 28 日に開催の「災害に強いまちづくりシンポジウム」に当たって、材料部会としての発表内容について議論を行った。シンポジウムでは既に本支部から発刊されている「2011 年東日本大震災 災害調査報告」の収録内容に基づく発表が指示されていたが、材料部会としてはこれに加えて、研究項目である津波被害と塩分浸透の影響についても、一般に向けた内容を重視して、床下など目の届きにくい部分のメンテナンスやモニタリングの重要性などについても盛り込むことを確認した。登壇は石山委員（秋田

県立大学）が当たることを決定した。また、西脇委員が長期出張に出るため、10 月より部会長は有川委員に引き継がれることを確認した。

第 3 回部会は 2015 年 2 月 9 日に開催された。今年度の総括と次年度の活動計画について議論し、今年度実施してきた津波被害とこれに伴う塩化物浸透など、震災関連事業に継続して取り組む方向で合意したが、サブテーマとしてライフサイクルエンジニアリング、特に、「維持管理の在り方」について検討していくこととした。また、技術報告集には本年 5 月に投稿予定であることを確認した。

(7) 施工部会

部会長 最知 正芳

施工部会は、東北に本・支店を置く建設会社の技術幹部社員、官公庁の技術吏員、大学・高等専門学校などの教員によって構成されており、特に建設実務に長けた委員の多い点に特徴がある。2014 年度もその特徴を活かす形で活動を行い、5 回の定例会の他に見学会、および今や本部会の主要活動の一つとなった感のある教育機関（仙台市内に所在する大学の大学院建築学専攻）への出前授業などを精力的に実施した。

今年度の定例会では主要テーマとして、「実務における倫理問題」を取り上げ、意見の交換を重ねた。施工部門に限定した論議だけでは語り切れない幅の広さと奥深さを併せ持つ課題であることの認識と共に、継続して取り上げて行くべき価値のある大テーマであることを認識するに到った。

（仮称）仙台水族館での見学会は、関係各位の協力により、竣工間近の工事現場で行われ、大水槽の設置に係る特殊な接合法を始め、多くの貴重な施工事例に触れることができ、大変有意義なものであった。

今年度の主要活動を以下に示す。

<定例会>

- 2014 年 05 月 21 日（水）東北支部事務局 出席 7 名
- 2014 年 07 月 24 日（木）ハーネル仙台 出席 8 名
- 2014 年 10 月 08 日（水）東北支部事務局 出席 10 名
- 2014 年 12 月 17 日（水）東北支部事務局 出席 8 名
- 2015 年 02 月 26 日（木）東北支部事務局 出席 7 名

<見学会>

2015 年 03 月 25 日（木）（仮称）仙台水族館 参加 11 名

<出前講義>

2014 年 10 月～2015 年 1 月 出講委員 延べ 8 名

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2014 年度は、6 月の「みちのくの風」に合わせて第 1 回の

部会を開催、第2回を11月に開催した。今年度は、特色ある支部活動企画の助成として採択が決定した、「東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた、教育機関と設計実務界をつなぐ教育プラットフォームの構築」に関して主に議論し、また活動した。

第1回の部会は、2014年6月21日(土)15:00~15:45に、日本大学工学部70号館6階講師控室にて開催し、6名の委員が出席した。主な議題は、1) 部会活動に関する方針の確認、2) 特色ある支部活動の遂行について、3) 支部研究報告会におけるデザイン発表会の創設について、であった。1) と2) については、部会長を中心にJIA(日本建築家協会東北支部)との協働などを模索しながら、教育機関同士の情報共有を図っていく旨が確認された。3) については、参加費や発表形式の想定、参加登録期限等の設定など、実務的な内容のほか、デザイン発表会に参加するためのモチベーションを如何にして保てるかなど、様々な意見が出た。2015年度の実施に向け、現在作業を進めているところである。

第2回の部会は、2014年11月10日(月)17:30~18:50に、支部事務局にて開催し、4名の委員が出席した。主な議題は、1) 建築学生テクニカルセミナーの開催について、2) 東北支部デザイン発表会の設立準備状況、3) JIA東北建築学生賞への協力に関して、であった。1) は、特色ある支部活動助成事業のメインとなる事業であり、具体的なスケジュールや役割分担などが話し合われた。2) については、その時点までの準備状況を報告し、了承を得た。3) についても報告し、了承を得た。

2015年度は、支部デザイン発表会の創設年であるため、委員各位と緊密な連携を図りながら事業を進めていく予定である。

(9) 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2014年10月28日に、せんだいメディアテークにて、災害に強いまちづくりシンポジウム-被災地からの発信-を東北支部と災害委員会の共催で開催した。参加者は約70名であった。本シンポジウムは、東北支部の各研究部会が東日本大震災後に行ってきた災害調査および復興支援を踏まえて、今後の国内外の地震対策に向けて、1) 東日本大震災の被災実態に基づく教訓をまとめること、2) 得られた教訓に基づいて、今後の災害に対する防災・減災上の課題および復旧・復興上の課題を示すこと、に主眼をおいて開催された。

シンポジウムは2部構成で、最初に吉野博会長の開催挨拶および源栄正人支部長の趣旨説明があった。第1部では、「東日本大震災の教訓と防災・減災上の課題」と題して、木村祥裕(東北大)、石山智(秋田県立大)、高橋典之(東北大)、三辻和弥(山形大)、最知正芳(東北工大)、赤井仁志(北海道大)の6名の講師から、宅地・建築構造から建築設備までを対象として、主に振動・津波による被害実態と教訓について

報告された。第2部では、「東日本大震災の教訓と復旧・復興上の課題」と題して、永井康雄(山形大)、坂口大洋(仙台高専)、増田聡(東北大)、手島浩之(JIA宮城)の5名の講師から、文化財保護から復旧・復興過程における課題および支援活動について報告された。

また、東北支部が2013年に作成した日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告をCD-ROM化した。

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2014年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

5月21日に幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も幹事会を開催し、事業の実施に向けて細部を検討してまいりました。

6月25日に開催した「全員協議会」では、幹事会で議決された事業計画を報告し、全員に協力をお願いするとともに、親睦を深めました。また、第4回JIA東北住宅大賞奨励賞ほか多数を受賞されている、有限会社アトリエアーク一級建築士事務所 代表取締役 前田卓氏による講演会『弘前の風景と設計姿勢』+その他 が開かれ、前田氏の地元である弘前市内に数多く残る「前川国男」の建築物について、そして、地元を重視する前田氏の設計姿勢についてご講演いただきました。

10月11日、12日に、2014年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

また、2月18日には「木造大規模建築物」講習会を開催し、耐火技術、曲面・曲線による構造等の先端木造建築技術を学びました。

青森支所では、今後も地域にねぎした活動で貢献してまいりたいと思いません。



秋田支所

秋田支所長 山口 邦雄

秋田支所では、郷田桃代氏(東京理科大学教授・インター

スペースアーキテツク級建築士事務所)を招き、「建築から都市・まちづくりへ -建築専門家にできること-」と題する講演会を、8月23日土曜日に高校生14名と高専生4名を含む50名の参加を得て開催しました。住宅を中心とした作品解説と大学での研究室活動の紹介があり、建築から都市・まちづくりへのタイトルどおり幅広い観点からの議論で盛り上がりました。

また、43回目となる工業系高校生による設計コンクールは、6校14作品の応募があり、2月11日の審査会において、最優秀賞に秋田県立秋田工業高等学校の生徒3人による「美の国秋田 詩の国秋田 ミュージアムという次世代型コミュニケーション施設」を選定しました。このほか、A2版9枚で再開発の計画を3名でまとめた作品、大きなプロジェクト提案でありつつ詳細な書き込みのある作品など、各校とも力の入った作品が揃いました。2月12日から14日の期間で一般公開、14日には表彰式と個別講評を行いました。



岩手支所

岩手支所長 勝又 賢人

2014年度の岩手支所の活動状況について報告します。
平成26年11月21日(金)に「盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

本シンポジウムは、盛岡固有の景観を守り、創り、育てるために、「まちづくりは人づくり」であるとの理念から、市民とともに景観を考える場として1980年度から開催しており、38回を数えることとなりました。

今回のシンポジウムでは、歴史的な市街地における地区の活性化やまちづくりをテーマに、「盛岡の景観の将来像～鉾屋町界隈のこれから～」と題して、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、講師に勝部民男氏(株式会社三衡設計舎)を迎え、「鉾屋町界隈の象徴として～浜藤の酒蔵の再生と活用～」と題して、昭和50年代以降における盛岡での景観への取り組みや鉾屋町界隈での町並み保全の取り組みなどを振り返りつつ、旧岩手川鉾屋町工場跡地の保存活用についての計画から竣工までを御講演いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに倉原宗孝氏(岩手県立大学)を、パネリストに鉾屋町界隈に在住の方々などを迎え、「盛岡の景観の将来像～鉾屋町界隈の

これから～」と題して、鉾屋町界隈を題材にこの界隈の活性化やこれからのまちづくりについて意見が交わされました。まとめとして、鉾屋町における開いていく景観という姿勢の重要性、当たり前良さを知ることと体験することの不足、暮らしの豊かさとしての不自由さを楽しむことができる姿勢の大切さなどが提起されました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

昨年度に続き「親と子の建築講座」を開催し、山形県内の建築および都市の形成史に関わる企画を検討した。

「親と子の建築講座」

日時：2014年9月19日 13:45～15:15

場所：山形県酒田市浜田小学校

対象：同小学校6年生46名および一般希望者(JIAおよび学校関係者)

JIA協力のもと学校の建築に関わる情報と建築の教養としての情報を、親にも伝えてもらう意図により行った。

酒田市の町の成り立ちや建て替え前の学校の様子を示し、建て替えた校舎の屋根など、以前を踏まえた形の説明がされた。休憩時に、実際の図面を見られるよう机の上に置くと同時に、建築構造に関し、チョークを手に取り、圧縮と曲げの強さの差を実感してもらった。建築や建築家についての説明に対し、建築家という職業に就きたいと思ったがその年収はいくらかという質問もあり、答えに苦慮する場面もあった。

地の建築としての街並みの上に近代建築は図の目印建築として、RCの箱から鉄とガラスの箱へ、さらに自由な形態の作品として創作されてきた。江戸から明治・大正まで日本中の街並みは、地の建物群が揃いの景観であった。高度成長期以降の降地の建築は揃いを失ったが、現代になり建築家設計の街並みが出現した。最後にどんな街並みのまちに住みたいか挙手を求めた。酒田市内のためか、昨年に比べ中高層のマンションのまちにも希望が多かった。

次年度以降の企画について相談し、次年度は山形駅前の不燃化ビル群の計画と設計に関する内容とする方針とした。

福島支所

福島支所長 古河 司

2014年度の福島支所の活動状況について報告いたします。
今年度は、『みちのくの風 2014 福島』、『福島県歴史的建造

物保全活用促進協議会』の活動や建築関係団体との連携による『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第34回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。

『みちのくの風2014 福島』は、6月21日（土）から22日（日）の2日間、日本大学工学部において開催され、日本建築学会会長の吉野博氏や国土技術政策総合研究所の高橋暁氏から招待講演をいただいたほか、第34回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会が行われました。

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、歴史的建造物の保全活用の専門家（ヘリテージマネージャー）の育成、派遣、活用等を行いました。

2014年12月6日に開催した『建築士事務所キャンペーン』では、「技術セミナー」として、住宅・建築並びに震災復旧復興に関わる最新の技術、材料、工法等のプレゼンテーションや「住宅・建築相談会」を開催し、被災復旧に伴うリフォームや耐震改修を計画されている方に対し、一級建築士、弁護士が相談に応じました。

また、「講演会」では吉村徳男氏から「大内宿・茅葺き屋根の家と暮らし」と題した講演をいただき、伝統的建築物を守り繋ぐ取組を通じた、元気なまちづくりについて理解を深めました。



吉村徳男氏講演

『第34回東北建築賞受賞作品展示会』については、2月18日から20日までの3日間、郡山市にて、「JIA福島2014作品展」及び「日本大学工学部卒業設計展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。



東北建築賞受賞作品展示会

今後も学術的な研究等を、福島の復興・再生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいります。

支部役員会から

常議員（総務企画）小地沢 将之

支部役員は、支部長と14名の常議員、2名の監事で構成されている。このうち監事を除く15名が会務を処理するため支部役員会において審議や議決を行っている。常議員には「総務・企画」、「社会・文化」、「会計・会員」、「学術・教育」および「図書・情報」の担当があり、会務を分担している。昨年度の支部役員会は5月、7月、9月、11月、2月、3月に開催された。支部役員会はSkypeを用いて会議に出席することができ、活発な審議が行われている。また支部長と総務・企画担当常議員は4月に総務会を開き、新年度の準備に当たったほか、9月には支所長会議に出席し、各支所長との意見交換を行った。

支部役員は支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を担っている。昨年度は「みちのくの風2014 福島」として、6月21日（土）と22日（日）の両日に日本大学工学部（福島県郡山市）を会場に開催した。吉野会長にもご出席いただく中、滞りなく行事を終えた。

2014年度はこのほかにも、「特色ある支部活動」プログラム、宮城県からの委託研究「宮城県近代和風建築総合調査」などを実施しており、本部と調整を支部役員会が担った。事業の詳細は各担当部会からの報告を参照されたい。

2015年3月には仙台において第3回国連防災世界会議が開催され、本会など建築系5団体の主催によりパブリックフォーラムを実施した。事業は本部が主導し、支部役員会では2年近くにわたって進捗を共有しながら各方面との調整に当たった。開催に際しては広報や動員の面で会員の多大なご協力を得た。ここに感謝の意を表す。

支部役員会および総務会の主な議事を以下に紹介する。これらの議事録は、東北支部のウェブサイトにおいて一般公開されているので、ぜひともご覧いただきたい。

■4月総務会（2014年4月21日開催）

〔報告事項〕理事会報告、会計報告、支部推薦理事候補者と常議員選挙開票結果・役割分担、支部年報編集報告、国連防災世界会議の進捗報告 〔審議事項〕総会資料と進行確認、後援依頼、支部の財務・会計監査、みちのくの風2014 福島

■5月支部役員会（2014年5月17日開催）

〔新旧役員の引継ぎ〕 〔報告事項〕理事会報告、総会進行の確認、みちのくの風2014 福島、災害委員会支部

企画書の提出，国連防災世界会議の進捗状況，東北建築賞募集要項 [審議事項] 支部代行者，学術推進委員会への支部代表委員選出，柴田先生大賞受賞記念講演会・祝賀会，建築文化週間事業

■7月支部役員会（2014年7月24日開催）

[報告事項] 理事会報告，会計報告，支部総会開催報告，みちのくの風 2014 福島，作品選集 2015 支部選考部会の審査経過，設計競技支部審査結果，災害委員会市民企画講座・支部企画の採択，国連防災世界会議の進捗状況，後援依頼承諾，柴田先生大賞受賞記念講演会・祝賀会進捗状況 [審議事項] みちのくの風 2015，教育賞の推薦依頼，JIA 東北建築学生賞への審査員派遣，東北建築賞・東北作品発表会への応募

■9月支部役員会（2014年9月17日開催）

[報告事項] 理事会報告，会計報告，作品選集 2015 支部審査，東北建築賞と東北建築作品発表会，選挙管理委員会の設置，後援依頼承諾，国連防災世界会議の進捗状況，柴田先生大賞受賞記念講演会・祝賀会開催と柴田先生からの寄付，委託研究調査の傷害保険 [審議事項] みちのくの風 2015，災害に強いまちづくりシンポジウム開催，支部役員選挙細則，建築デザイン発表会創設と建築学生テクニカルセミナー開催，大賞業績候補の推薦，文化賞候補業績の推薦

■11月支部役員会（2014年11月26日開催）

[報告事項] 理事会・支部長会議報告，会計報告，代議員・支部役員候補者届出，東北建築作品発表会，設計競技全国審査会結果，作品選集 2015 全国審査結果，国連防災世界会議の進捗状況，協賛依頼承諾，災害に強いまちづくりシンポジウム開催，事務局の雇用契約 [審議事項] 支部総会の日程・会場など，みちのくの風 2015 山形，支部研究報告会・建築デザイン発表会の募集要項，2015 年度予算案，支部年報第 35 号の発刊，支部研究補助費の申請，設計競技支部審査員の選出，全国・大学高専卒業設計展示会の会場

■2月支部役員会（2015年2月24日開催）

[報告事項] 理事会報告，会計報告，支部研究補助費申請，東北建築賞作品賞の選考，国連防災世界会議の進捗状況，作品選集次期委員，後援依頼承認 [審議事項] みちのくの風 2015 山形，支部総会の付随行事，建築文化事業開催，本部災害委員会への委員推薦，共催依頼

■3月支部役員会（2015年3月31日開催）

[報告事項] 理事会・支部長会議報告，会計報告，全国・大学高専卒業設計展示会の日程，支部企画の募集，第 16 期代議員選挙結果，国連防災世界会議開催，本部災害委員会への委員推薦，支部研究報告会論文提出状況，支部年報編集状況 [審議事項] みちのくの風 2015 山形，支部総会の付随行事企画，東北建築賞募集要項(案)，支部監事の選定

支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2014年度 (2014年6月～2015年5月)	2015年度 (2015年6月～2016年5月)
支部長	源栄正人 (東北大)	源栄正人 (東北大)
総務企画	後藤伴延 (東北大) 小地沢将之 (仙台高専) 有川 智 (東北工大) サンジェイ・パリーク (日大)	有川 智 (東北工大) サンジェイ・パリーク (日大) 高橋典之 (東北大) 永井康雄 (山形大)
社会文化	佐藤真也 (山形大) 手島浩之 (設計集団/UAPP) 小林 光 (東北大)	手島浩之 (設計集団/UAPP) 小林 光 (東北大) 荻谷哲朗 (秋田県立大)
学術教育	許 雷 (東北工大) 日比野 巧 (日大) 川村広則 (東北文化学園大)	川村広則 (東北文化学園大) 齋藤俊克 (日大) 福屋粧子 (東北工大)
会計会員	笹淵優樹 (仙台市) 佐藤大作 (JR 東日本)	志賀俊輔 (仙台市) 濱口雅義 (JR 東日本)
図書情報	荻谷哲朗 (秋田県立大) 宮腰直幸 (八戸工大)	宮腰直幸 (八戸工大) 藤田智巳 (仙台高専)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪	伊藤章子 瀧 美雪

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	木村祥裕 (東北大学教授)
材料部会	有川 智 (東北工業大学教授)
建築計画部会	坂口大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	崎山俊雄 (秋田県立大学准教授)
施工部会	最知正芳 (東北工業大学教授)
環境工学部会	小林 光 (東北大学准教授)
建築デザイン教育部会	櫻井一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	前田匡樹 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2015年4月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	54名
正会員 (個人)	1,183名
正会員 (法人)	32法人
準会員	25名
賛助会員	7法人

東北支部監事

2014年6月～2015年5月

佐々木健二 (JR 東日本)

鈴木 博之 (仙台市)

2015年6月～2016年5月

佐藤 大作 (JR 東日本)

笹淵 優樹 (仙台市)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2014年4月 ～ 2016年3月	木村 祥裕 (東北大学教授) 濱田 幸雄 (日本大学教授)
2015年4月 ～ 2017年3月	佐藤 健 (東北大学教授) 杉山 敬宏 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社設備部 工事課建築担当課長)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株式会社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科准教授)
岩手支所	勝又賢人 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	蓮沼敏郎 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

2014 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2013 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2014 年度事業計画・予算案	2014 年 5 月 17 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (1)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、 作品選集支部選考部会 (2) 災害委員会支部企画運営委員会 (2) その他 部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 三浦金作、石田壽一、横山直樹 (新任) 木村祥裕、濱田幸雄	2013 年 4 月～2015 年 3 月 2014 年 4 月～2016 年 3 月
支 部 長 改 選	(留任) 若井正一 (新任) 源栄正人	2012 年 6 月～2014 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤、速水清孝、 八十川淳、渡辺敏男、陳 沛山※ (留任) 後藤伴延、小地沢将之、佐藤慎也、許 雷、日比野巧 笹渕優樹、佐藤大作 (新任) 有川 智、荻谷哲朗、川村広則、小林 光、宮腰直幸 サンジェイ・パリーク、手島浩之	2012 年 6 月～2014 年 5 月 ※ 2013 年 6 月～2014 年 5 月 2013 年 6 月～2015 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	佐々木健二、鈴木博之	2014 年 6 月～2015 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長]	[テーマ名]	
	構 造 : 木村祥裕 材 料 : 西脇智哉 建築計画 : 坂口大洋 地方計画 : 増田 聡	構造技術における新しい試み 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編	
	歴史意匠 : 相模誓雄 環境工学 : 菅原正則 施 工 : 最知正芳 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 災害調査連絡会 : 源栄正人	歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 建築分野における最新技術とその施工法について 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・大規模災害時の停電による空調・給排水衛生設備の凍結対策技術 環境工学部会 (研究代表者 菅原正則)		2014 年 4 月～2015 年 3 月
特色ある支部活動採択事業	・東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた 教育機関と設計実務をつなぐ教育プラットフォームの構築 (研究代表者 櫻井一弥)		2014 年 4 月～2015 年 3 月
支部研究報告会	2014 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 77 号計画系・構造系刊行 発表題目 93 題		2014 年 6 月 21 日～22 日 日本大学工学部 70 号館

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 災害に強いまちづくりシンポジウム</p> <p>2) 第25回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第35回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2014 福島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・第34回東北建築賞表彰式 ・第34回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 福島等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座(山形支所)</p> <p>2) 親の子の建築講座(歴史意匠部会)</p> <p>2) 第34回東北建築賞作品展示会 仙台市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2014年10月28日</p> <p>2014年9月25日</p> <p>2014年10月～2015年1月</p> <p>2014年6月21日～22日 日本大学工学部70号館</p> <p>2014年9月29日</p> <p>2014年10月12日</p> <p>2014年6月～2015年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第34回東北建築賞作品賞部門 作品賞6点、特別賞2点、研究奨励賞部門1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰代表者3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人会員10社</p>	<p>2014年6月21日 日本大学工学部70号館</p> <p>2014年5月17日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第34回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第43回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の建築講座 ・第34回東北建築賞作品展示会 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2014年7月</p> <p>2014年10月11日～12日</p> <p>2014年7月19日～22日</p> <p>2015年2月11日</p> <p>2014年9月29日</p> <p>2014年10月27日～31日</p> <p>2014年6月21日・22日</p> <p>2015年2月18日～20日</p>
刊行活動	<p>支部年報第34号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第77号計画系・構造系発刊</p> <p>2014年東北建築作品集(第25号)発行</p>	<p>2014年5月17日</p> <p>2014年6月21日</p> <p>2014年9月25日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>建築物荷重指針改定講習会</p>	<p>2015年3月2日</p> <p>仙台市情報・産業プラザ 参加者57名</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2014年7月～2014年11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：建築のいのち ・日本建築学会「作品選集2015」東北支部選考部会 	<p>2014年7月17日 支部事務所会議室</p> <p>2014年6月～9月 支部事務所会議室</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2015 年 4 月 1 日 至 2016 年 3 月 31 日
2015 年度事業計画 (案)	

〈事務の部〉

総 会	1. 2014 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2015 年度事業計画・予算案 3. 支部規程の改正	2015 年 5 月 23 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (2)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建 築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 木村祥裕、濱田幸雄 (新任) 佐藤 健、杉山敬宏	2014 年 4 月～2016 年 3 月 2015 年 4 月～2017 年 3 月
支部長改選	(留任) 源栄正人	2014 年 6 月～2016 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 小地沢将之、後藤伴延、許 雷、笹淵優樹、佐藤慎也 佐藤大作、陳 沛山、日比野巧 (留任) 有川 智、苅谷哲朗、川村広則、小林 光、宮腰直幸 サンジェイ・パリーク、手島浩之 (新任) 齋藤俊克・志賀俊輔、高橋典之、福屋粧子、藤田智己 濱口雅義・永井康雄	2013 年 6 月～2015 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月 2015 年 6 月～2017 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	佐藤大作、笹淵優樹	2015 年 6 月～2016 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 有川 智 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 崎山俊雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究 助成金による研究	・震災復興における施設整備・都市計画と生活再建との橋渡し 地方計画部会 (研究代表者 増田 聡)	2015 年 4 月～2016 年 3 月
支部研究報告会	2015 年度第 78 回東北支部研究報告会 研究報告集第 78 号計画系・構造系刊行 発表題目 88 題 2015 年度第 1 回東北支部デザイン発表会 発表題目 7 題	2015 年 6 月 20 日～21 日 山形大学
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 26 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 36 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2015 山形 ・支部研究報告会と招待講演	2015 年 10 月 2015 年 10 月 3 日 2015 年 10 月～2016 年 1 月 2015 年 6 月 20 日～21 日

	<ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞表彰式 ・第35回東北建築賞受賞作品展示会、JIA山形等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 2) 第35回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市 	山形大学 2015年9月～10月 2015年6月～2016年2月
研究部会主催	<ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催 	
表彰	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第35回東北建築賞作品賞部門 作品賞5点、特別賞2点 2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者3名 3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人会員5社、賛助会員1校 	2015年6月20日山形大学 2015年5月23日 せんだいメディアテーク
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第35回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第44回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2015年7月</p> <p>2015年10月</p> <p>2016年2月</p> <p>2015年7月</p> <p>2016年2月</p> <p>2015年11月</p> <p>2015年6月</p> <p>2015年9月</p> <p>2016年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第35号発刊</p> <p>日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告CD-ROM 発刊</p> <p>東北支部研究報告集第78号計画系・構造系（第1回東北支部デザイン発表会込）CD-ROM 発刊</p> <p>2015年東北建築作品集（第26号）発行</p>	<p>2015年5月23日</p> <p>2015年5月23日</p> <p>2015年6月20日</p> <p>2015年10月3日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事 改定講習会	2015年8月4日 ハーネル仙台
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2015年6月～2015年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「もう一つのまち・もう一つの建築」 ・日本建築学会「作品選集2016」東北支部選考部会 	<p>2015年7月</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2015年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)昂設計
(株)阿部重組	千田総兵衛建築事務所
(株)安藤・間	(株)本間利雄設計事務所+
(株)関・空間設計	地域環境計画研究室
鹿島建設(株)	東日本旅客鉄道(株)
(株)久米設計	東北電力(株)
(株)工藤組	一般社団法人
(株)熊谷組	東北空気調和衛生工事業協会
清水建設(株)	クレハ錦建設(株)
仙建工業(株)	日本原燃(株)
大成建設(株)	(株)楠山設計
(株)竹中工務店	(株)ティ・アール建築アトリエ
戸田建設(株)	(株)I N A新建築研究所
(株)ユアテック	(株)東北開発コンサルタント
西松建設(株)	山形県立図書館
堀江工業(株)	日本大学図書館
前田建設工業(株)	東北芸術工科大学
(株)ピーエス三菱東北支店	八戸工業大学
(株)三菱地所設計	日刊建設産業新聞社
(株)山下設計	
(株)梓設計	
東日本興業(株)	